

「白山自然保護調査研究会」令和2年度委託研究事業要約

1. 白山麓の自然環境と伝統文化の継承～地域社会の活性化と持続発展に向けた基礎調査

代表者 中村浩二

参加者 嘉瀬井恵子・本田匡人

(1) 風土・自然環境と地域食の関係性

嘉瀬井恵子

「ユネスコ白山エコパーク」に認定された白山麓には、里山の豊かな自然とそれと共生した伝統文化が息づいている。しかし近年、過疎・高齢化が進行し、集落消滅も起きつつあり、いま集落の活性化と伝統知識の将来へ継承が急務である。白山地域の報恩講で提供される伝統の地域食「ほんこさん料理」を事例として、風土・自然環境と食文化との連環を分析することにより、生物文化多様性からみた地域食の真正性を明らかにする。初年度である本年は、白山ろくを3回訪問し、「ほんこさん料理」の継承者に面談し聞き取りをおこなった（令和2年12月と3年2月は、白峰地区、3月は中宮および木滑地区。3月には、石川県立自然史資料館の植物研究者である古池博、中野真理子両氏に「ほんこさん料理」で用いられる山菜、キノコ等の植物学的知見の教示を受けた。その結果、(1) 現在、本格的な「ほんこさん料理」は、ごく少数の高齢者によってのみ継承されており、将来消滅する危機にあること、(2) この料理は、地域住民の浄土真宗信仰と深く関わっていること、(3) 用いられる食材は、地域に生育する山菜、キノコなどであり、同じ白峰地区であっても、集落により利用する採集場所、種類相、調理法などが異なることがわかった。最近30年くらいのあいだに住民の生活スタイルが激変してきたことが、「ほんこさん料理」の現状に反映していることが判明し、予備調査として十分な成果を上げたと考えている。

(2) 地域住民の健康モニタリング

本田匡人

白山麓における様々な健康問題への一つの切り口として、健康への影響が懸念されるネオニコチノイド系農薬の人間での暴露実態を把握するためのバイオモニタリング実施にむけた予備調査を実施した。本年は、令和2年12月22～23日に白峰地区を訪問し、山口一男（白山ろく民俗資料館長）、山口 隆（しらみね自然学校）の両氏等にインタビューし、白山ろくの集落、行政、関係組織等の概要、基礎的統計資料の所在について教示をえた。本年の現地調査は、この一回のみであったが、その後、大学、行政、民間等の研究者との情報交換をおこない、今後の本格的調査に向けた準備をおこなうことができた。本調査では、住民からの尿サンプルの収集が必須であり、そのためには住民から信頼を得る必要があり、本年度はその準備体制づくりに着手できた。次年度は、少数でも尿サンプルを採取し予備分析する予定である。